

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690300054		
法人名	仁恵会		
事業所名	グループホーム新町御池 花ユニット		
所在地	京都市中京区新町通姉小路下町頭町92番地		
自己評価作成日	令和5年10月17日	評価結果市町村受理日	令和5年12月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&jiyosyoCd=2690300054-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83-1「ひと・まち交流館 京都」1階		
訪問調査日	令和5年12月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

京都市の中心部にあり、祇園祭では鉦が施設の前を通る為、迫力のある巡行が見られます。利用者様はご家族様と一緒に毎年楽しまれている。施設の特徴としては、勤務経験の長い職員が多く、開所より働いている職員が多くいます。また介護福祉士の割合も多く90%の職員が介護福祉士の資格を持ち、さらにケアマネの資格を持つ職員も数名います。職員の経験を活かしながら、委員会活動を積極的に行い、排泄やケアプラン、感染症などを話し合い、若い職員の指導にも力をいれています。コロナで外出の機会が減りましたが、施設内でデイサービスと共同でお祭りやクリスマス会を開いたり、おやつレクリエーションを利用者様と職員と一緒に企画・買い物・調理を行なっています。日々の体操にも力を入れて、体力・筋力の低下防止も積極的に行っています。通信や日中のお知らせなど写真入りで作成し、日々の生活や様子をご家族にも見てもらいやすいように工夫しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「人としての誇りを大切に暖かく質の高いケアに努めます。」など、法人の4つの基本理念をもとに、『「気づき」の視点を増やし未然の事故防止につなぐ』を施設目標として、全職員が一丸となり取り組んでいます。最近入職された職員も、資格だけではなく人間性の伴った当事業所職員のレベルの高さが励みになると述べています。そのようなスタッフに囲まれ、利用者は、初詣、ひな祭り、花見や紅葉ドライブ、食事レクリエーションなどを楽しんでいます。コロナ禍以前ほど外出できなくなったものの、ゴボウ体操や広いリビング内歩行、洗濯物干しや洗濯物量み、掃除などで体を動かし、筋力低下の防止を図っています。何よりも利用者が楽しみにされているのは、祇園祭りの華やかな鉦がお囃子とともに前の通りを巡行するのを間近に見られることです。一方、事業所では最近Instagram(写真・動画投稿サイト)を始め、コロナ禍でも事業所内の様子が分かるように、楽しい画像を発信しています。利用者は一様に明るく、平均介護度3.0とは思えない生き生き感を持って過ごされています。母体医療機関との連携が強く、医療面のバックアップがあることも大きな安心要素です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット会議やリーダー会議などで理念を唱和し、グループホームとしての役割が果たしているかを確認している。ADLの維持向上を図る事で、可能な限り自立した生活ができるように見守る体制をとりながら援助していく。	法人理念をもとに、ユニットの年度目標を「お薬関連の事故をゼロにする。」と定め、年度末にリーダー会議で見直している。事故やヒヤリハットの度に原因を分析し、再発防止を心がけている。各種委員会や、会議の前には全員で法人理念を唱和し、認識を新たにしている。法人理念は玄関入り口に、ユニット目標はユニットの廊下の壁に掲げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	祇園祭の際は、近隣住民より声をかけてもらい交流が図れた。今年は親睦会もあり、多数の職員が参加し交流が図れた。近隣の店舗に利用者や買い物に行き、一緒に調理をすることがある。近隣の仕出し屋さんからお弁当を配達してもらい、顔なじみを作るようにしている。	町内会に入り、回覧板を回している。コロナ禍により地域との関係が薄れていたため、事業所長は地域の防災訓練に、職員は町内の懇親会に参加している。近隣の新聞販売店から新聞を購読している。町内の方からぬいぐるみの寄贈があった。近くのコンビニエンスストアやスーパーで必要品を購入している。地域のやや高級な仕出し屋に行事用弁当の注文もしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の住民への認知症の理解を深める為、包括と協力し、理解を深められるような機会を持つようにしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご本人、ご家族、近隣グループホーム管理者、本部施設長、地域包括職員、民生委員、老人福祉委員などの方々に参加頂き、活動報告や事故報告を行ない、幅広い意見をお伺いしてサービスの向上につなげている。ご家族からは在宅時の状況や入所してからの感想などをお伺いすることがあり、参考になり、施設での介護につなげる事が出来ている。	運営推進会議では、入退去、介護度などの利用者の状況、職員の員数、保有資格、重大事故・ヒヤリハット報告、行事、その他胃腸風邪の流行などの事業所情報を分かりやすくまとめて出席者に提示し、双方が意見交換をしている。資料は会議参加者と行政に郵送している。	地域包括支援センター職員以外の外部からの参加者が少なめです。外部の方への働きかけを積極的にされては如何でしょうか。また、事業運営への理解を深めてもらう取り組みのひとつとして、会議録は全家族に送付されるよう期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナが施設内で発生した時は、色々な物資を提供して頂いたり、アドバイスを受ける事が出来た。	行政主催の会議等は案内がなく、参加していない。新型コロナクラスター発生の折は行政に報告し、アドバイスをもらい、マスクやガウン等の必要品や抗原検査キットの支給も受けている。運営推進会議議事録や事故報告は郵送している。介護サービス相談員は現在利用申し込み中である。	

京都府 グループホーム新町御池 花ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スピーチロックを含め、何が拘束になるか具体的に示し、全職員が周知できるように研修や会議を繰り返して行っている。過剰に手助けすることで、拘束につながっていないか、自立支援にも注意して日々の介護に当たっている。	3か月に1回身体拘束虐待防止委員会を開催している。所長・副主任と各ユニット代表、当日出勤している職員とでおこない、ユニット会議で伝達している。年2回の全職員研修はeラーニングでおこない、テストも実施されている。不合格者はいない。帰宅願望の強い利用者は、「夕食を食べてからにしましょうか」などと声掛けをして気分を変えてもらっている。事業所前の交通量が激しいため、行政とも相談し、安全を優先して出入口は施錠をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や施設内研修を行い、虐待について学ぶ機会を設けている。行き詰った様子の職員を早めに見つけ、話を聞くことで、虐待を防止するようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修があった時は、必ず参加するようにし、施設内研修にて職員に周知徹底を行なうようにしている。後見人制度について、学ぶ機会を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	介護保険上の難しい言葉が使用されている箇所がある為、わかりやすく理解できるように言い換えをするなどして、疑問点などがないように丁寧に行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様とご家族様にアンケートを取り、要望を聞くようにしている。また結果をご家族様に送付し、職員同士でも共有している。職員は部屋担当制にし、ご家族との連絡を密にとる事で、意見を聞く機会を作っている。苦情についても言いやすい環境を作り、ご家族に常に関心を持ってもらえるようにしている。	今年は家族からアンケートを取り、結果はグラフも用いて見やすく纏め、全家族に送っている。家族からは面会やLINEなどでの情報交換への要望がある。利用者の意見を日頃から聞き取り、食事や行事に活かすようにしている。散歩の好きな利用者と一緒に食事レクリエーションの買い物に行くなどしている。	アンケートの纏めだけではなく、寄せられた意見や要望に対し、事業所としてのコメントも加えてご家族に送られては如何でしょうか。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	面談シートを作り、リーダー・副主任が職員の面談を行なっている。年度末には、所長・主任でもう一度面談を行っている。	職員とは各種会議や、年2回の面談で要望や研修への希望などを聞いている。体力面で不安のある職員には、シフトに配慮し、持ち回りで担当する委員会活動を負担に感じる職員の相談などにも乗っている。正職員比率が高く、有給休暇消化率も高く、離職者が少ない。働きやすく人間関係も良いと職員からヒアリングで聞き取った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	時間外労働をなるべく減らし、有休や連休の取得できる環境をつくり、無理のない働き方を推進している。また向上心が持てるように、研修の機会を増やしキャリアパスや処遇改善加算でやりがいが出るようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員には実務者研修を受けさせ、介護福祉士を持っている職員には実践者研修やリーダー研修が受けられるようにしている。また介護福祉士の試験を受ける時には出張扱いとし、受講料は施設が全額負担している、		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の会合に出席する事があったが、近年はコロナの為、開催がなく出来ていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所面接時にご本人の意向を十分に確認するようにし、入所後は緊張感をやわらげ、リラックスできる言葉かけや環境の整備を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安に思われている事をご家族や本人、担当ケアマネから聞き取り、所長・主任・リーダー・居室担当者が、理解・納得できるように説明するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所面談時にケアマネと相談し、共同生活が難しい時は時期を調整したり、他のサービスの選択肢もある事を伝えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症があっても、人生の先輩と思い、尊敬の気持ちを持ちながら介護に関わるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活暦や家族介護状況をうかがい、また利用中の様子を伝え、施設内での生活を知って頂き、施設で困った事などを相談できる関係を持つようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は感染症予防の為、施設内への立ち入りは避け、玄関先で行っている。遠方のご家族や友人からはテレビ電話で会話されている。懐かしいと昔話をさせていただく事も多い。施設の車で市内へドライブに出かけ、行ったことのある場所に訪れ、懐かしみ回想話をしている。	家族とは面会や、リモート面会、事業所入り口の廊下での面会などで、関係の継続を図っている。毎月写真入りの広報紙を家族に送っているが、広報紙への写真や名前の掲載を希望されない家族には、3か月ごとに担当職員が手紙と写真を郵送している。電話でも定期的に本人の様子を知らせている。体操を兼ねたレクリエーション、お気に入りの歌のDVDなどを見て一緒に口ずさんでいる。個人で新聞を購読している方もある。姉妹で入所されており、妹さんの部屋を尋ねる方もある。亡夫のご葬儀に参列された方もある。毎年事業所前を通る山鉾巡行を楽しみにされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂において職員が話題作りをし、団欒の場をもてるようにしている。一緒に食器を拭いたり、洗濯物を置くことで、会話が弾む。自分からのコミュニケーションが難しい方には職員が声かけをして孤立しないようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設や病院の相談員に利用中の様子を伝え、なにかあれば気楽に相談していただけるように伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方の好みなどをご本人やご家族から聞き取り、思いに沿えるようにしている。部屋の調度品も自宅から思い出の物を持って来てもらう。	フェイスシートに本人の生い立ち、職歴、好きなことや行動パターンなどを記載し、支援に役立てている。センター方式のシートを模した、「私の介護について」を作成し、本人の思いを写真入りで記載している。食事やレクリエーションなどへの希望は随時取り入れ、外出好きの方には調理レクリエーションの買い物に同行してもらっている。表現のしにくい方からは、動作や筆談で意向を把握し、職員は気づきを介護ソフトの「気づき」「申し送り」欄に記入し、共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴や家族、職業などを聞くことでご本人を深く理解できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りや、チェック表の確認によって、毎日の生活の変化を全職員が把握できるようにしている。		

京都府 グループホーム新町御池 花ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題統括表を作り、どのようなケアが必要であるかを分析し、身体面だけでなく、生きがいになることや、BPSDの発症を防ぐような計画になるようにしている。主治医や歯科医、訪看、リハビリなど多様な意見も含めて介護にあっている。	各職種が連携して本人支援にかかわっている様子は介護ソフトの各種記録に詳しく記載されている。通院時の医師とのやりとりや、処方なども詳細に記録されている。状態が安定している方は介護計画の長期目標を1年に設定し、入退院やその他の変化があれば随時変更している。介護職は毎日介護計画の達成状況を確認・記録し、それを総括してケアマネジャーが3か月ごとにモニタリングをし、計画の妥当性を見極めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録を細かく入力し、日々の変化なもの早く気付けるように、施設全体で共有していく。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎日の申し送りや、ユニット会議により、ニーズの読み込みと対応について、ケアマネと検討し実践している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度は参加する機会が少なかったが、地域行事へ参加する事によって、地域との関わりを持つ機会を増やしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は決まっているが、それ以外の医師や病院にも家族の希望により、受診されている。診療内容については付き添われたご家族に内容を聞き取り、主治医に報告している。	在宅時のかかりつけ医も継続できることを説明しているが、全ての利用者が協力医療機関の診療を希望し、内科と皮膚科医師の定期訪問や臨時の往診を受けている。訪問看護が24時間オンコール体制で対応し、協力医療機関と連携を取り、往診や服薬処方の指示を受けている。眼科など他の専門外来は、家族が受診同行するが、依頼により職員が対応することも可能である。歯科は必要に応じて往診や職員対応で受診している。入院時の情報は管理者とケアマネジャーが、書面で情報提供をしている。退院時は看護サマリーや病院の医療相談室に問い合わせるなどして、身体状況や食事形態などを詳しく把握している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護が週一回来られ、体調確認をされる。それ以外の日は24時間体制で連絡、相談が取れる体制となっている。		

京都府 グループホーム新町御池 花ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は主治医や看護師、相談員などに利用者の情報を速やかに報告し、希望を伝えるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化や終末期について話し合うが、入所後も都度話し合いの場を設け、本人・家族が納得した選択が出来るようにしている。緊急時には24時間体制で病院と連絡が取れるようになっており、終末期をホームで送られる方もいる。	入所時に家族に説明し看取りについての意向を聞いている。ここ数年は対象者がいなかったが、職員には看取りの経験者が多い。研修はリーダーが外部研修に出向き、ユニット会議で共有している。また、必要に応じて外部の講師をオブザーバーに招いて学ぶ機会もある。故人の見送りは職員と他利用者が一緒におこなっている。後に家族が荷物を取りに来られた時に思い出話をしたり、生前の写真を手渡すなどして故人を偲んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応について、訪問看護の指導を受けながら、対応の方法をユニット会議で話し合っている。新人職員には入所時の研修を行なっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練(火災・水害・地震)の訓練を定期的に行い、全職員が有事の際には慌てず対応できるようにしている。備蓄品(食料・衛生用品等)を準備している。近隣には常に協力を得られるように声掛けを行なっている。	昼夜想定で年2回、地震・火災の避難訓練をおこなっている。ハザードマップでは水害の安全地域であるため、消防署とも話し合い、有事には上階に垂直避難の予定である。地域との連携を意識して地域の懇親会に参加し、顔つなぎから始めている。福祉避難所ではないが、近隣の方が避難してくることも想定して事業継続計画(BCP)を作成中である。地域の消防訓練にも参加している。倉庫がないことが課題であるが、備蓄は3日分用意している。去年職員緊急連絡網を回して確認したところ、時間がかかりすぎたので、新たにライングループでの緊急時一斉配信を始めた。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	権利擁護やプライバシーの保護についての研修を行ない、一人一人が気持ちよく生活できるような環境を作っている。	新人には主任が直接権利擁護について説明している。職員研修は基本的にはeラーニング(動画研修)で実施し、外部講師を招いての法人内研修への参加者もある。利用者のプライドを尊重し、本人と家族との関係性や、過去の生活歴を理解した上で、本人に寄り添う支援を心掛けている。職員には、日々の言葉かけに対する利用者の反応をよく見て、気づきを得るよう促している。日頃トイレの入り口には暖簾をかけ、出入りを目立たなくしている。職員に不適切な言動があればその場で指導している。	

京都府 グループホーム新町御池 花ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ずつゆっくりとお話を聞く機会を持つことで、ご自分の思いや希望がいえる関係作りに努めている。はっきり自分の意思を伝えられない方においては、表情などからくみ取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の生活の流れは崩さないようにし、体調や在宅時の生活習慣を考慮し、起床や就寝の時間・食事の時間など一人一人のペースで行えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人自身に今日着る衣類を選んでいただく。散髪は定期的に行い、身だしなみに注意し、清潔感のある暮らしを支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を職員が聞き取り、希望のあった仕出し弁当(うなぎや寿司)を取るなどして、普段と違う食事の提供を行い、食の楽しみを持ってもらうようにしている。一緒におやつ作りをすることもある。お茶碗拭きを手伝ってもらうなどそれぞれの役割をもって生活してもらっている。	日常的な食事はクックチル(湯せんで解凍)を使用している。利用者には配膳などを手伝ってもらっている。飲み込みの困難な方には刻みやミキサー食も取り寄せて提供している。ご飯と汁物はフロアの対面キッチンで作っている。献立には季節のメニューも月に2回程度組み込まれている。包丁やピーラーを使える方もあり、カレーや流しそうめん、おやつの水無月、かぼちゃプリン、ゼリーなどを調理レクリエーションとして楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご飯の硬さやおかずの大きさ、制限食の有無、水分量など一人ひとりに合わせた食事の提供を行えるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝晩の口腔ケアを自分では行えない方は職員が介助し、自分で出来る方は確認や見守りを行うようにしている。歯科医師や衛生士に指導を受け、見てもらっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつけることで排泄パターンを知り、タイミングのよい誘導で失禁を減らし、清潔を保つようにしている。排泄委員会を立ち上げ、パット、リハビリパンツの使用を減らしている。排泄の研修にも参加している。	排泄チェック表により個々の排泄パターンを把握し、適時の声掛けや誘導をしている。排泄表は医師や訪問看護師にも見てもらっている。自立の方も数名いる。利用者の支援について、布パンツを使用するか、夜間の介助は定期的な誘導か、あるいは睡眠を優先して大パットを使用するか、また、失敗した時の本人の羞恥心にはどのように配慮するかなど、排泄委員会やユニット会議、ケアプラン会議にて話し合っている。	

京都府 グループホーム新町御池 花ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の確認や、繊維の多い食品を取り入れた食事の工夫、体操や散歩・腹部マッサージの導入などにより、服薬だけに頼らない排便の促しを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日お風呂を沸かしているため、拒否があったり、体調が不安定の方は時間を置いたり、日を変えて入浴してもらうようになっている。入浴が楽しめるように、マンツーマンでゆっくりした介助を心掛けている。シャンプーは肌の弱い方には個人にあったシャンプーを使用している。	基本は週2回で、午前10時頃までに3名ほど入浴している。職員配置により昼の時もある。浴槽のお湯はオーバーフローで、身体的に重介助が必要な方は2人介助でおこなったり、シャワー浴で対応している。シャンプーやボディシャンプーは事業所で用意しているが、希望により好みのもを使用することもできる。入浴拒否のある方は、ユニット会議で話し合い、本人の気持ちを理解するよう努めている。声かけの職員を替えるなど、何かの工夫やきっかけで早く入浴できている。季節の柚子湯、菖蒲湯なども楽しんでいる。	充分配慮されていると思いますが、一般的に高齢者にとって朝風呂、食事後すぐの入浴は危険が伴う場合があります。また入浴の時間は1:1で話せる大切な機会です。職員も利用者もゆったりした気持ちで入浴できるような時間配分をされてはいいかと思いますが、そこにさらなる気づきが生まれると思います。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間や起床時間・衣類については本人の希望にあわせている。眠れない時は職員が声をかけたり、フロアで過していただくようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容と服薬理由を職員一人ひとりがしっかり把握できるように、リストを作っている。体調の変化があったときはすぐに主治医に連絡がとれるように体制を整えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の希望を把握し、それぞれに合った役割を楽しみを支援できるように、ユニット会議により職員同士で情報を共用し、提供できるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	玄関先まで、徒歩または車いすに乗って出かけて、外の景色を楽しむようにしている。施設の車で京都市内をドライブすることも多い。	コロナ禍で自粛中であつたが、夏ごろから少しずつ規制を緩めている。御池通のあじさいを見に行ったり、近くの神社に散歩に出かけている。利用者の希望を容れ、少人数に分けて車でドライブに出かけ、鴨川沿いや車折神社、宝ヶ池、嵐山大覚寺などに花見や紅葉狩りに行き、「茅の輪ぐり」なども体験している。近隣のスーパーやドラッグストアに職員と買い物に行き、通院やメガネ購入のために家族とも外出している。	

京都府 グループホーム新町御池 花ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使うことを希望された時は職員と一緒に買い物に行き、商品を選んで支払いをする事を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は職員が介助で電話をかけられるようにしている。携帯電話を所持されているかたもあり、自由に家族に電話をかけられている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明の色を優しい色にしたり、大きな物音を立てないように職員が気をつけるようにしている。フロアには花を飾ったり、季節を感じられる置物をおくなどしている。	季節の装飾が施されたユニットの入り口には職員の写真が貼られ、リビングの壁には利用者が創ったアジサイや紅葉、行事の写真などが飾られている。中庭からリビングのガラス越しに明るい光が差し込んでいる。当職訪問時は食事前で、利用者はテーブルに着き、来訪者に優しく話しかけて来られた。全体の雰囲気は穏やかで温かい。椅子の高さ調節のために、足置きを置いている方もある。食事中はテレビを消し静かな音楽をかけている。加湿器付き空気清浄機4台を備え、換気や室温にも気を付け、利用者が床ワイパーで職員と共に掃除をするフロアには清潔感があった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを点在して置くことで、パーソナルスペースを作り、一人一人がゆっくり過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅時に使い慣れた家具や仏壇の持ち込みや家族の写真を置くなどして、居心地よく過ごせるように家族と相談しながら配置している。	居室の入り口の横には転倒防止のために、縦の手すりが設置されている。表札にはそれぞれが趣向を凝らし、大きさや素材も自由である。居室がわからなくなり不安な方には、リビングから本人が見ても分かるように、角度をつけた大きな表札をつけている。居室入り口に暖簾をかけている方もいる。居室内には洗面台、洋服ダンスとローチェスト、椅子が予め備えられている。冷蔵庫やテレビなどを持ち込んでいる方もある。歩行の不安定な方はジョイントマットを敷き、転倒時の骨折予防をしている。本人の身体状況、認知症状や好みに応じて居室をレイアウトし、沢山の装飾品や写真などに囲まれた賑やかな居室や、すっきりと整頓された居室など、様々に工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを廊下に配置することで自立歩行を促し、トイレにはわかりやすいように表示して自分で行けるようにしている。		